

令和6年度 第1回射水市文化財審議会 会議概要

I 開会日時 令和7年2月19日（水） 午前10時から午前12時

II 会議場所 庁舎会議室306

III 出席者 [委員] 上野委員、鈴木委員、久々委員、城岡委員、島添委員、
柳委員、三宮委員
[事務局] 金谷教育長、久々江事務局長、星野次長、金三津係長、
轡田学芸員、原田

IV 会議概要

1. 開会 教育長あいさつ

2. 議題(1)「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用計画の作成について

議題(2)市有形民俗文化財「放生津八幡宮祭り 曳山車 長徳寺曳山車」の現状変更について

報告(1)能登半島地震における指定文化財等の被害と対応状況について

(2)富山県郷土食調査について

(3)「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」修理事業について

3. 閉会

【質疑・発言】

議題（1）「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用計画の作成について

[委員] 内容の濃い充実した計画であると思います。高岡・城端・魚津にも曳山はありますが、県内で保存活用計画は作られていますか。

[事務局] 県内では初の事例です。山・鉾・屋台行事としても初めての事例となります。

[委員] 広報活動や情報発信について盛り込まれていますが、祭りとセットで町全体の概要も紹介するような観光活用の拠点が新湊にあれば良いと思います。

[委員] 川の駅でも曳山が展示されていますが情報は少ない。あれだけ立派な曳山なので公開展示が必要だと思います。

[委員] 曳山祭りには様々な団体関わっていますが、関係する団体が多ければ多いほど、役割の線引きが重要になります。活用の体制整備や役割分担については、措置として記載されていますが、行事を活用するための責任の明確化は必要なので、方針としても盛り込んで良いのではないのでしょうか。

[委員] 近年では、インバウンドの対応も考えないといけない。京都の祇園祭だけでなく、日本各地に祭りのあることが外国の方にも知れ渡っているので、他地域との違いを明確にしていくことも大切です。計画にインバウンドの対応が盛り込まれてい

ますが、それに対する宿泊・食事・安全対応等も明確にしていく必要があります。

[委 員] 行事の背景等について調査研究されたものはありますか。行事のいわれ等を知ることができれば、新たなファンも増やしていけるのではないのでしょうか。

[事務局] 令和2年刊行の総合調査報告書にまとめています。わかりやすく伝わるような、なじみやすい切り口を考えていく必要があると考えています。

[委 員] 曳山を県外や外国へもって行って展示する可能性はありますか。

[事務局] 昭和39年に、新町の曳山が宝塚市で展示された例があります。

[委 員] 保存活用計画については、文化財審議会や文化庁等からの意見・指導事項を事務局で取りまとめて保存会に伝達し、適切な指導をお願いします。

議題（2）市有形民俗文化財「放生津八幡宮祭り 曳山車 長徳寺曳山車」の現状変更について

[委 員] 心柱新調の見積額が高いのではないですか。芯去材（木の中心を含まない材）を使う仕様のため、太い木材が必要となり、その分材料費が高くなっていると考えられます。

芯去材は、収縮や反りは少ないが、芯持材（木の中心部を含む木材）と比べて強度は落ちます。芯持材は、強度はあるが亀裂が生じやすいという欠点があります。

[委 員] 新湊の曳山は勢いのある曳き方なので、強度が低いものは問題があるのではないですか。

[委 員] 部位ごとに適材適所で用いることが必要です。経費の節減も含めて、芯持材の方が良いのではないですか。

[事務局] 保存会に木材の性質について説明します。そのうえで、芯持材への変更も含めて使用材料の再度の検討を求めます。

[委 員] 本件については、交換した部材や記録等をしっかりと残すこととして承認します。

報告（1）能登半島地震における指定文化財等の被害と対応状況について

[委 員] 寺院の仏像は、須弥壇や逗子への安置まで完了していますか。

[事務局] 安置まで完了しています。

[委 員] 蓮王寺高寺大仏の修理方針は決まりましたか。

[事務局] 建物内に安置されており、急激に劣化が進む状況ではないため、現時点での修理は見送り、将来的に修理方法を検討していくこととなりました。

[委 員] 文化財サポーターズ事業の第1弾は、クラウドファンディングとのことですが、特定の対象を設定しないで行ったものですか。

[事務局] 文化庁が、能登半島地震災害復旧のために寄付を募ったものです。その後、集ま

った資金の利用について応募したところ、石川県で2件、富山県で1件が採択されました。富山県の1件が旧田中家（国登録有形文化財）です。採択後は、別途採択物件を対象にしたクラウドファンディングが行われました。また、修理後の活用に対するアドバイスも受けられることとなっています。

[委員] クラウドファンディングの資金だけでは修理費に足りませんが、有り難いことです。旧田中家の土蔵は過去の調査でも基礎など足元の傷みが確認されていました。県内にある100年以上経過した土蔵の大部分は足元が弱っています。そこに今回の地震があったので被害が拡大しています。

仏像の足元やホゾを修理していますが、膠のほか接着剤は何を使いましたか。

[事務局] 可逆性のある接着剤を使っています。ただし、必要最低限の接着としています。

[委員] 弱い接着剤だけでは強度が保てないので、躰玄寺の台座のように、表から見えない部分に芯材を入れて強化していく方法も、今後必要ではないかと考えます。

報告（2）富山県郷土食調査について

[委員] その地域ならではの郷土食については、80代以下の世代ではわからなくなってきています。過去にも何度か郷土食の調査は行われていますが、悉皆的な調査は行われていません。射水市でも、海岸部と山間地で違った特色がありますが、今回が最後の調査の機会になるかもしれません。

[委員] 今回の郷土食調査では、主に昭和30年代に食べられていたものが対象とされています。基礎調査はほぼ終わっており、今後、基礎調査の事例からピックアップして実地調査を行っていくこととなっています。

報告（3）「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」修理事業について

[委員] 国の無形民俗文化財指定を受けていますが、射水市の有形民俗文化財でもあるので、必ず現状変更の届出が必要になります。

国指定文化財の修理になると、使用する素材の選定や修理方法等、これまで以上に細かくなります。また、修理報告書の作成も求められます。国の補助金を受けることになるので、しっかりと体制を整える必要があります。

[委員] 修理期間も長期化するので、祭りの時期と重なる等、無形の行事の継続と有形部分の修理の調整がかなり難しくなるが、しっかり進めていく必要があります。

[委員] 曳山は動く工芸品であり、映画化もされ、世界遺産にもなるので、より大切に扱っていく意識が求められる。ハード・ソフト面両方で良い方向へ向かうようにしてほしい。